

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

昨年と同様、選択形式の考察問題が多く出題された。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空欄補充 選択 論述	細胞 タンパク質	生物	問8 タンパク質 X が細胞小器官 A の内部に存在し、タンパク質 Y が細胞小器官 A の膜上に存在することから、(I)では葉緑体のストロマに存在するルビスコを、(II)では筋小胞体膜に存在するカルシウムチャンネルを選択する。	標準
II	記述 論述 計算	遺伝子 遺伝	生物	問3 初期発生過程の体細胞分裂で $A(CGG)_{100}$ が $A(CGG)_{230}$ へと変化した場合、2つの娘細胞にそれぞれ $A(CGG)_{100}$ と $A(CGG)_{230}$ が受け継がれると考えることができるが、いずれの娘細胞にも $A(CGG)_{230}$ が受け継がれると考えることもできる。	やや難
III	空欄補充 選択 記述 論述	植物の反応 神経	生物	問6 感情的内容により扁桃体が刺激されると、記憶が定着しやすいと考えればよいだろう。 問8 海馬の詳細な働きに関しては、表1から読み取ることにはできないので、現在に近い時期の記憶に関係していることが書けていればよいだろう。	やや難
IV	空欄補充 選択 論述	生態 系統	生物	問5 平均距離法と最節約法のいずれで考えても同じ解答になる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々な分野から出題されるので、全分野についてもれなく学習しておこう。また、文章読解力を高め、実験考察型の問題を論理的に解析する能力を養い、論述のポイントを見抜く力を高める必要がある。問題の分量が多いので、問題文からポイントを見つけて論述解答を手早くまとめるための演習を積んでおこう。遺伝子を扱った問題や遺伝計算が含まれる問題は特徴的であり、かつ出題頻度が高いので、過去問で練習するのがよい。生態の分野は出題される頻度が高いので、注意しよう。